

## 勤労婦人の母性意識に関する研究

— 乳幼児の母親を対象にして —

宮原 忍, 松岡 恵\*, 新道 幸恵\*\*, 山川登貴子\*\*\*

要約：乳幼児を持つ勤労婦人817名に対して、母性意識やその影響要因の職業別、勤労形態別の違いを明らかにする目的で、質問紙による調査を行った。その結果、子どもへの愛着は、専門管理職が販売・技能職より高く、子どもとの一体感は、常勤がパートより低いなどの傾向が認められた。

見出し語：勤労婦人、母性意識、勤労形態

研究方法：松戸市内の保育所に子どもを預けている母親817名に質問紙を直接配布・回収した。

調査項目は、子どもに対する愛着、夫に対する愛着、実母に対する愛着、実父に対する愛着、友人の支援、本人の性格、実家や夫の家族との関わりについて65項目である。

分析は、各質問に対する回答は、「はい」を3点、「どちらでもない」を2点、「いいえ」を1点として計算した。因子分析（バリマックス回転）を行い、そのうちの第5因子（子どもへの愛着）、第7因子（子どもとの一体感）の2因子と勤務形態、仕事の種類、などの対象背景との関連性を検討した。統計処理は多変量解析ハンドブック用のソフトHALBOUを用いた。

結果：回収数は512（回収率63%）であった。

### 1) 対象背景

母親は平均31.3歳（20歳から47歳）、父親は平均33.7歳（20歳から52歳）、子どもは2歳未満が181名（35.3%）、2歳以上3歳未満が203名（39.8%）、3歳以上4歳未満が124名（24.6%）であった。母親の職業は、専門管理職232名（45.5%）、事務職101名（19.8%）、販売・技能職100名（19.7%）、自営61名（12.1%）であり、勤務形態は、常勤345名（67.6%）、パート118名（23.1%）、家業の手伝い45名（8.8%）であった。

常勤者は、パートに比べ、平均年齢が高く子供の数が少なく子供の世話をする時間が少ない

\*東京大学母子保健学教室 (University of Tokyo)

\*\*国立公衆衛生院 (Institute of Public Health)

\*\*\*千葉県松戸保健所 (Matsudo Health Center, Chiba Pref.)

傾向が認められた。また、常勤者には専門管理職が多く、仕事をする理由では、「自分の能力を生かすため」「仕事が好き」の割合が多い傾向が認められた。

## 2) 因子分析の結果

「夫への愛着」、「実母への愛着」、「実父への愛着」、「友人の支援」、「子供への愛着」、「未熟な性格」、「子供との一体感」の7因子が抽出された（累積寄与率30.6%）。

## 3) 第5、第7因子との関連要因

第5因子（子供との愛着）の合計点は、専門管理職が、事務職、販売・技能職よりも有意に高かった（ $P<0.05$ ）。

第7因子（子供との一体感）の合計点は、パートが常勤より有意に高く（ $P<0.01$ ）、販売技能職、自営業は専門管理職より有意に高かった（ $P<0.05$ ）。さらに、第一子は、第二子以降より有意に高く、母親の年齢が20歳～24歳、25歳～29歳の者は、30歳～34歳、35歳～39歳の者より有意に高かった（ $P<0.01$ ）。

第5因子（子供への愛着）、第7因子（子供との一体感）の内容

因子	内容	因子得点	平均点
第5因子	母親であることがうれしい	-0.5887	2.9(0.4)
	この子と一緒にいると楽しい	-0.5536	2.9(0.2)
	夫は相談相手でありたい	-0.4052	2.9(0.3)
	この子の身の回りの世話が楽しい	-0.3890	2.7(0.5)
	私はこの子が好き	-0.3495	3.0(0.2)
	小さな子供を見ると相手をしたくなる	-0.3318	2.6(0.6)
第7因子	いつもこの子と一緒にいたい	-0.3298	2.7(0.6)
	この子は体の一部だと思う。	-0.6196	2.2(0.7)
	私の幸せはこの子だけ	-0.5667	1.8(0.7)
	この子を生きる張合いにしたい	-0.5503	2.5(0.7)
	この子のためならどんな事でもする	-0.4462	2.6(0.6)
	私がいないと困るとこの子に思われたい	-0.4404	2.1(0.6)
	いつもこの子と一緒にいたい	-0.4291	2.7(0.6)

図1 職業別第5、第7因子の主要項目の合計点

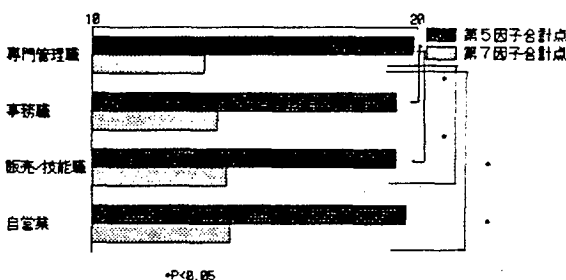
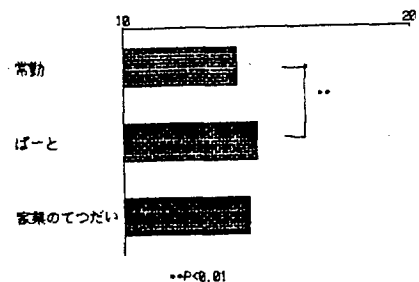


図2 勤務形態別第7因子の主要項目の合計点





## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:乳幼児を持つ勤労婦人 817 名に対して、母性意識やその影響要因の職業別、勤労形態別の違いを明らかにする目的で、質問紙による調査を行った。その結果、子どもへの愛着は、専門管理職が販売・技能職より高く、子どもとの一体感は、常勤がパートより低いなどの傾向が認められた。